

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成 2 2 年度病害虫発生予察注意報第 3 号について

平成 2 2 年度病害虫発生予察注意報第 3 号を公表したので送付します。

## 平成 2 2 年度病害虫発生予察注意報第 3 号

平成 2 3 年 1 月 2 5 日  
宮 崎 県

病害虫名	斑点病
1 発生地域	ピーマン 県下全域
2 発生時期	収穫期
3 発生量	やや多
4 注意報の根拠	

1 月中旬の巡回調査における発生面積率 53.4%（平年 23.0%、前年 6.7%）は平年よりやや多、発病葉率 5.0%（平年 1.3%、前年 0.1%）は、平年より多である。（図 1）  
12 月下旬以降の急激な冷え込みや燃油高騰対策のため、多くの農家がハウス内の多層被覆を行っている。間もなく低温期を過ぎて徐々に気温が上昇していくが、多層被覆下のハウスでは暖房機の稼働時間が短いために施設内湿度が高くなり、病原菌の蔓延に好適な条件になると考えられる。  
また、今後茎葉の繁茂する時期を迎えることも施設内湿度の上昇を助長する要因となると考えられる。

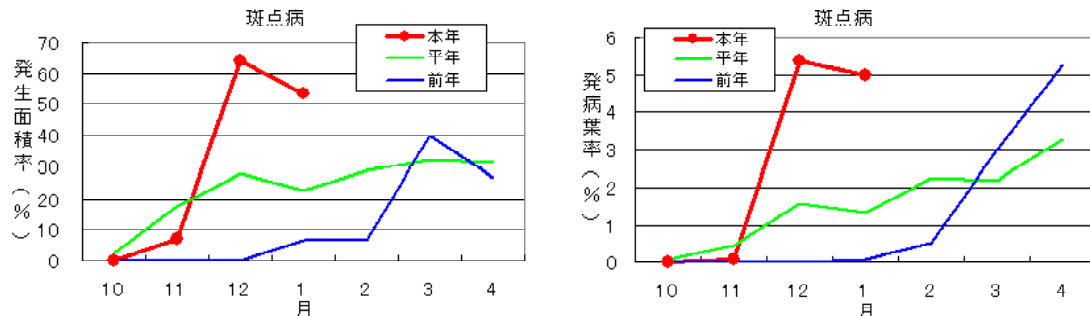


図 1 斑点病の発生面積率、発病葉率の推移

### 5 防除上の注意

発病適温が 20～25 で多湿条件の環境下で発生しやすい。  
整枝を行って茎葉が過繁茂とならないように注意する。  
罹病葉は伝染源となるので、ほ場内に放置せず、ハウス外へ持ち出し焼却するなど適正に処分し、ハウス内の病原菌密度の低下を図る。  
病勢が進行すると防除困難となるため、予防及び早期防除に努める。  
ハウス内の温度および湿度管理に十分注意する。外気温や温度設定の状況によっては多層被覆栽培では暖房機が稼働しないことがあるので、送風機を作動させて結露の防止や湿度の低減を図るなどの管理を行う。  
薬剤耐性菌を生じる恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避け、系統が異なる薬剤のローテーション散布に努める。  
その他詳細については、病害虫防除・肥料検査センター、総合農業試験場生物環境部、西臼杵支庁・各農林振興局（各農業改良普及センター）等関係機関に照会する。また、農薬の散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努める。

#### 《連絡先》

病害虫防除・肥料検査センター 壹岐  
TEL : 0985-73-6670 Fax : 0985-73-7499  
ホームページ : <http://www.jpnp.ne.jp/miyazaki>  
E-mail : [byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp](mailto:byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp)